

五十号刊行にあたって

本学・日本文学会は、専門学部・国語漢文科二十八年の歴史を踏まえて、昭和二十九年六月二十七日、呱呱の声をあげた。故清水泰教授の還暦を記念して計画されたもので、和田繁二郎名誉教授が、当時、助教授として実行委員長の任をつとめておられる。が、その運営の中心は、今日、すでに長老的立場にある、たとえば土岐武治・大橋清秀・鈴木弘道・水田潤などの諸先生であった。そして、同年七月末に、本誌の創刊号が出されている。それは、故藤藤丹治博士の論攷は別格として、いずれも三十歳前後の先輩諸兄の初々しい論攷がならぶ。新しいものを創り出さんとするさわやかな論陣であった。

本年度は、本学会創設三十三年目を迎える。そして、本誌は五十号を刊行することとなった。その華々しい過去を振りかえりつつ、また、その途次の苦難をもかみしめながら、新たな前進を期して記念特集号を編む次第である。さいわい本学文学部の研究費助成を受け、かつ先輩諸氏の円熟した諸論攷に、院生諸君の若々しい諸論稿を添えて、充実した本誌とはなった。

願くは、本誌刊行を一つの節目として、本学・日本文学会の発展と、会員諸氏の学究のいっそうの前進をはかられたいと、強く念じて筆を擱く。

昭和六十二年五月

昭和六十一年度日本文学専攻主任・会長

福田

晃